

UTCP 中期教育プログラム「哲学としての現代中国」
最終報告会

哲学・翻訳・救済

中島隆博『哲学』（岩波書店、2009年）を読む

発表者：西山雄二、高榮蘭（UTCP）

応答：中島隆博（UTCP）

中島隆博（超域文化科学・准教授）が担当する UTCP の中期教育プログラム「哲学としての現代中国」は、今夏で2年間の活動を終えます。本プログラムは現代中国を哲学のトポスとして取り上げて、数多くの国内外の研究者との連携によって、研究教育活動を積み重ねてきました。「儒教復興」という現象を通じた宗教と哲学の関係の再検討、中国の思想界における西洋哲学の言説の分析を通じて、主に「古典回帰」の動向をめぐって哲学としての現代中国」が多角的に共同研究されてきました。

今回は、中島隆博の新著『哲学』（岩波書店、2009年）を合評することで本プログラムの最終報告をおこないます。『哲学』は、「現在、哲学をいかに考えればよいのか」が平易な文体で綴られた概説的な一書です。また、UTCP における中島氏の研究教育活動の理論と実践の足跡が、簡潔な筆致で描き出されています。本プログラム「哲学としての現代中国」に関心がある方のみならず、「哲学」の将来的な可能性に関心を寄せる方にも広く開かれた会となります。

2009年7月7日（火）14:30-16:30

東京大学駒場キャンパス18号館4階コラボレーションルーム1

使用言語：日本語 入場無料 事前予約不要

主催：東京大学グローバル COE 「共生のための国際哲学教育研究センター（UTCP）」